

アクセシブルな観光 第3報

— 地元の認知症介護関係者による観光地調査 —

大 橋 美 幸

1. はじめに

既報において、認知症の人が介護家族と共に旅行する例が増えていることを紹介し、その意義をまとめた¹⁾。加えて、観光地等の受け入れ側に認知症に理解のある支援ボランティアをおく提案を行い、その事例を紹介した²⁾。

本報では、観光地に暮らす認知症介護関係者が地元の観光スポット、宿泊施設、交通機関、商業施設等をどのように感じているのか、アンケート調査及び現地調査を行った。

2. アンケート調査

調査項目は回答者基本属性、認知症の人及び家族にとっての旅行や観光の意味、地元の観光関連施設の認知症の人にとっての利用しやすさである。観光関連施設は史跡、公園、美術館、駅・空港など20ヶ所であり、認知症の人にとっての利用しやすさの判断基準として「落ち着いてゆったりすごせるか」、「認知症の人に分かりやすいか」、「スタッフや周囲の人は助けてくれるか」、「事前に言えば特別な配慮をしてくれるか」、「トイレ・スロープ・駐車場の近さ」などを例示した。

調査時期は2013年夏。道南の8つの認知症介護家族会の会員に、家族会を通じてアンケートを依頼し回収した。加えて、函館市で行われた道南認知症

疾患医療センター協議会主催の講演会において、参加者にアンケートを配布資料と共に配布し、終了後に出口で回収した。

なお、アンケートは介護家族、介護職員など認知症の関係者を対象としているが、家族会の会員、講演会の参加者は共に「認知症に関心があるが直接関わったことがない」者を含んでいる。このためアンケート配布時に口頭で説明し、加えて回収後に認知症の人に直接関わったことがない者の回答を除外した。

回収された165部、このうち認知症の人に直接関わったことがない29部を除外し、136部を集計の対象とした。

(1) 回答者基本属性

女性が7割を占める【図2-1】。60歳以上が半数である【図2-2】。認知症の人との関わりは、現在介護中の家族が3割、過去に介護していた家族が2割、仕事で関わっている人が4割である【図2-3】。仕事で関わっている人の職種は介護職員、ケアマネジャー、保健師、行政職員

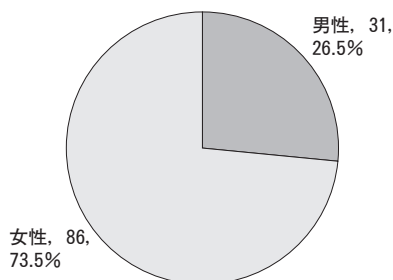


図2-1 回答者基本属性：性別

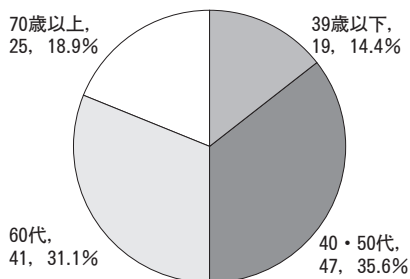


図2-2 回答者基本属性：年代

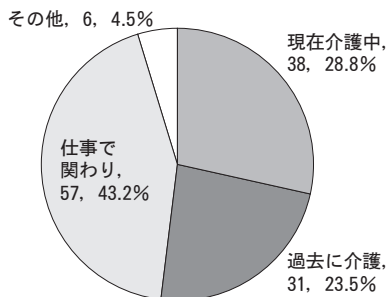


図2-3 回答者基本属性：認知症の人との関わり

など、施設種類は特別養護老人ホーム、グループホーム、通所介護事業所、訪問介護事業所、地域包括支援センター、保健センター、市町村などであった。「その他」にはボランティアなどがあった。

(2) 認知症の人及び家族の観光・旅行

認知症の人と共に旅行に行った経験を尋ねたところ、国内旅行3割、海外旅行3%、行ったことがない7割であった【図2-4】。仕事に関わっている人、現在介護中及び過去に介護していた家族、仕事に関わっている人で差は見られなかった。

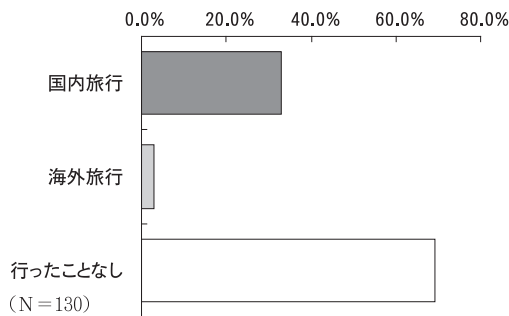


図2-4 認知症の人と共に旅行・観光に出かけた経験

国内旅行は札幌、松前、箱根、東京、京都、広島、徳島など、観光、温泉、墓参り、法事、結婚式、里帰りなどに夫婦や子どもと出かけている。海外旅行はグアムなどに、夫婦や子どもと出かけている。

認知症の人が旅行や観光をする意味として、「懐かしい場所を訪ねる」、「外出の機会」、「できる間にできることをする」が半数を超え、「思い出づくり」、「非日常に刺激を受ける」の順であった【図2-5】。その他には「(認知症の人が) 家族と喜びをともにする」、「認知症に対する社会の理解促進」などがあった。

実際に認知症の人と共に旅行に行った経験の有無による差は見られない。

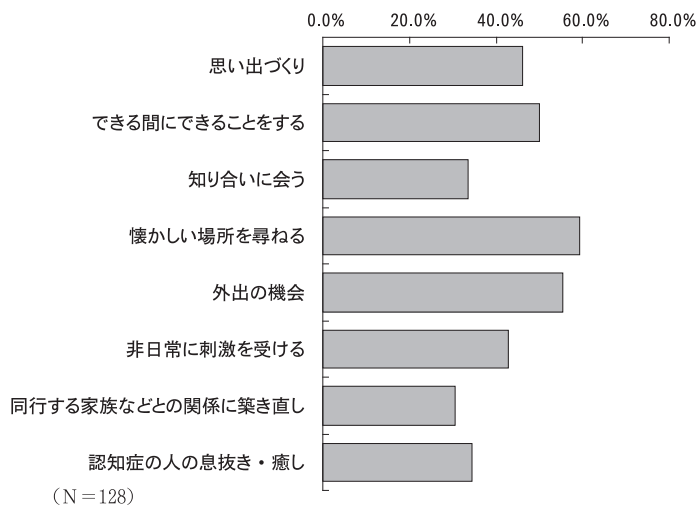


図2-5 認知症の人が旅行や観光をする意味

認知症の人と共に旅行に行くかどうかは、認知症の人が旅行や観光をする意味の認識ではなく、実際にそのような機会があり、手助けなどが得られたかどうかによると推測される。

現在介護中及び過去に介護していた家族よりも、仕事で関わっている人の方が「懐かしい場所を訪ねる」、「外出の機会」、「同行する家族などとの関係の築き直し」を多くあげる傾向が見られた【表2-1】。

表2-1 介護家族と仕事で関わっている人の 認知症の人が旅行や観光をする意味

		介 護 家 族 (N=64)	仕事で関わっている (N=57)
認 知 症 の 人 が 旅 行 や 観 光 を す る 意 味	思い出づくり	30人 (46.9%)	27人 (47.4%)
	できる間にできることをする	33人 (51.6%)	28人 (49.1%)
	知り合いに会う	26人 (40.6%)	15人 (26.3%)
	懐かしい場所を尋ねる	29人 (45.3%)	44人 (77.2%)
	外出の機会	28人 (43.8%)	39人 (68.4%)
	非日常に刺激を受ける	23人 (35.9%)	28人 (49.1%)
	同行する家族などとの関係の築き直し	11人 (17.2%)	24人 (42.1%)
	認知症の人の息抜き・癒し	18人 (28.1%)	23人 (40.4%)

介護家族が認知症の人と共に旅行や観光をする意味として、「認知症の人とも思い出づくり」が7割、「認知症の人の新たな面の発見」、「認知症の人同伴で家族同士の交流ができる」が半数であった【図2-6】。その他には「(家族と認知症の人の) お互いの癒し」、「介護者に対する社会の理解促進」などがあった。

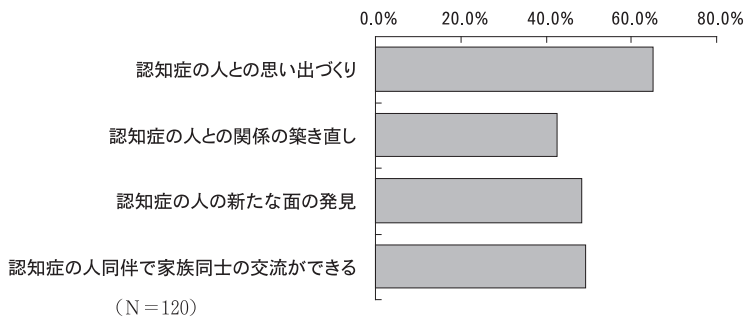


図2-6 家族が認知症の人と共に旅行や観光をする意味

現在介護中及び過去に介護していた家族よりも、仕事で関わっている人の方が「認知症の人との関係の築き直し」、「認知症の人の新たな面の発見」を比較的多くあげる傾向が見られた【表2-2】。

表2-2 介護家族と仕事で関わっている人の家族が認知症の人と共に旅行や観光をする意味

		介護家族 (N=58)	仕事で関わっている (N=56)
観光 の 意 味	認知症の人との思い出づくり	39人 (67.2%)	37人 (66.1%)
	認知症の人との関係の築き直し	16人 (27.6%)	31人 (55.4%)
	認知症の人の新たな面の発見	19人 (32.8%)	33人 (58.9%)
	認知症の人同伴で家族同士の交流	24人 (41.4%)	33人 (58.9%)

(3) 観光関連施設の認知症の人にとっての利用しやすさ

道南の観光関連施設の認知症の人にとっての利用しやすさを「とても利用しやすい」、「利用しやすい」、「普通」、「利用しにくい」、「とても利用しにくい」の5段階に「行ったことがない」を加えて尋ねた。「行ったことがない」

を認知症の人の利用を想定していないと捉えて、合わせて集計すると利用しやすさの評価は総体的に低い。「とても利用しやすい」と「利用しやすい」で3割を超えているのは道立美術館、函館駅、函館空港のみであり、五稜郭公園、芸術ホール、四季の杜が約2割である【図2-7】。よい理由として、バリアフリー、スタッフの配慮、ゆったりすごせることなどがあげられており、逆に悪い理由として、駐車場が遠い、段差、人混み、不安になることなどがあげられていた【表2-3】。

体験談として五稜郭公園「何度も利用してよい思い出になった」、函館山「ロープウェイと一緒に乗って喜んでいた」、谷地頭温泉「温泉好きなので一緒に行って世話をしてもらった」、鹿部間欠泉「足湯に連れて行った、気に入っていた」などの記載もあった。

項目としてあげた道南の観光関連施設以外に、認知症の人が利用しやすい場所としてレストラン、ホテル、公共施設の名前があがっていた【表2-4】。逆に利用しにくい場所として市役所、銀行・郵便局、霊園、カラオケ店などの名前があがり、段差、スタッフの認知症に対する理解不足などの理由が書かれていた。

なお自由記入欄に「他の人に遠慮がある」、「家族が申し訳なく思うと外出を控えることになる」、「外出先、旅行先において周囲には認知症であることを理解してもらう手段を講じる。社会全体で認知症に対する対応などの知識及び意識を高める必要があると考えます」、「場所の問題より、その時々に対応してくれる職員・人の問題が大きく左右するのだと思います」などの周囲の理解を求める声があり、「認知症サポーターが居るようにして欲しい」、「他県では観光ヘルパーなるものがあり、ホテルでも地域一帯がとりくんでいるところもある」などの既報²⁾の支援ボランティアにつながる意見が見られた。

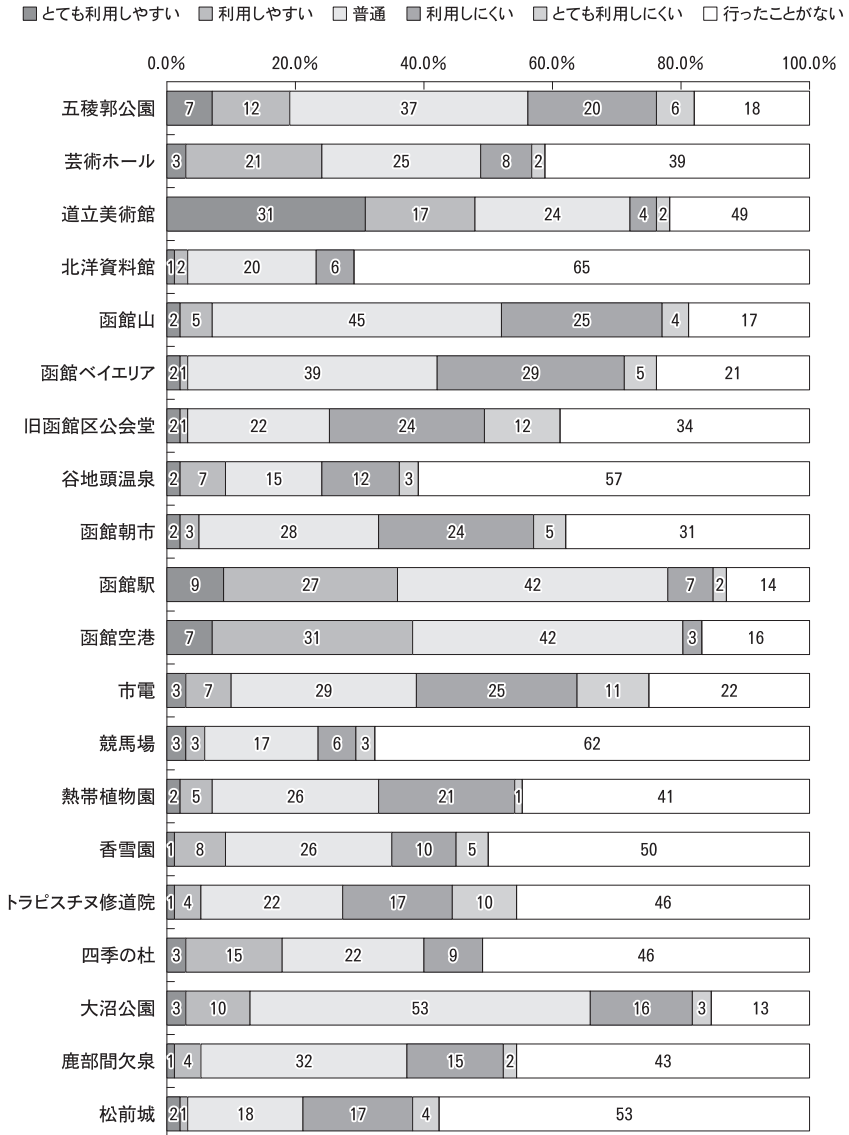


図2-7 観光関連施設の認知症の人の利用しやすさ

(※グラフ内の数値は人数)

表2-3 観光地の認知症の人の利用しやすさ 理由・意見

(※一部抜粋)

	よ い 理 由	悪 い 理 由
五 稜 郭 公 園	<ul style="list-style-type: none"> ・ゆったりとして緑も多い ・桜もきれいで散歩するところも多い ・タワーの展望台で窓が外に傾斜しているため、景色がよく見える 	<ul style="list-style-type: none"> ・トイレが近くにない ・段差があり車椅子では困難 ・歩にくい ・観光駐車場からは段差を超えないと中に入れない ・駐車場が遠い ・休むところが少ない
芸 術 ホ ー ル	<ul style="list-style-type: none"> ・公共施設なのでスタッフの協力は得やすい 	<ul style="list-style-type: none"> ・一般の展示が地下室なので ・駐車場から段差を超えずにホールに入るにはかなり遠回りをする
道 立 美 術 館	<ul style="list-style-type: none"> ・喫茶店もあり、ゆっくり休める 	<ul style="list-style-type: none"> ・駐車場から段差を超えずに中に入るにはかなり遠回りをする
北 洋 資 料 館		<ul style="list-style-type: none"> ・わかりにくい ・駐車場から段差を超えずに中に入るにはかなり遠回りをする
函 館 山	<ul style="list-style-type: none"> ・ロープウェイがあってよい ・事前に連絡すると山頂売店前にリフト車を駐車できる ・事前に連絡すると車椅子などに配慮してくれる 	<ul style="list-style-type: none"> ・車椅子だと道が斜めで大変
函館ベイエリア	<ul style="list-style-type: none"> ・ドライブで景色を見るにはよい 	<ul style="list-style-type: none"> ・ゆったりできない ・橋や石畳が歩きづらい ・観光客が多すぎて ・同じような建物の中だと不安になる
旧函館区公会堂	<ul style="list-style-type: none"> ・ドライブで景色を見るにはよい 	<ul style="list-style-type: none"> ・階段や石畳が多くて歩きづらい ・段差がある ・車椅子で中に入れない
谷 地 頭 温 泉		<ul style="list-style-type: none"> ・駐車場が少ない
函 館 朝 市	<ul style="list-style-type: none"> ・道が平ら 	<ul style="list-style-type: none"> ・まわりに車が多く危険 ・観光客が多すぎて介護の負担が多い ・狭いので手をつないで歩きづらい ・駐車場が狭い
函 館 駅	<ul style="list-style-type: none"> ・以前よりもバリアフリーになった ・階段なくホームに出られる 	<ul style="list-style-type: none"> ・駐車場が遠い
函 館 空 港	<ul style="list-style-type: none"> ・以前よりもバリアフリーになった 	
市 電		<ul style="list-style-type: none"> ・乗り降りで足元が危ない ・段差
競 馬 場		<ul style="list-style-type: none"> ・人混みで利用しにくい
熱 帯 植 物 園		<ul style="list-style-type: none"> ・段差が多い
香 雪 園	<ul style="list-style-type: none"> ・ゆったりして緑も多い ・車椅子駐車場が入り口付近にある 	<ul style="list-style-type: none"> ・坂が多く歩きづらい
トラピスチヌ修道院		<ul style="list-style-type: none"> ・坂が多い

四季の杜	<ul style="list-style-type: none"> ・ゆったりして緑も多い ・休憩所が広い ・段差が少ない 	<ul style="list-style-type: none"> ・傾斜が結構あり、歩くには大変
大沼公園	<ul style="list-style-type: none"> ・ゆったりできる ・休む場所がある ・駐車場が多い 	<ul style="list-style-type: none"> ・トイレが使いづらい ・駐車場から景色がよいところまで遠い
鹿部間欠泉		<ul style="list-style-type: none"> ・通路が狭い
松前城		<ul style="list-style-type: none"> ・階段がきつい ・坂が多い

表2-4 認知症の人が利用しやすい場所

	名 称	所在地	理 由
レストラン等	レストラン アゼリア	大手町 (国際ホテル内)	入り口スロープ、中はバリアフリーで通路も広く車椅子で移動できる。ホテルに車椅子用トイレあり。
	レストラン ラ・ステラ	本 通	入り口スロープ、中はバリアフリー。個室あり、テーブルに車いすのまま入れる
	コーヒールーム きくち	湯川町	落ち着いた長居できる、年寄りが多い
	レストラン テーブル・ドゥ・ リバージュ	七 飯 町	大沼のすぐそばで落ちついている。バリアフリー。景色を間近で見ることができる。貸し切りOK
映画館		函館市 いずれも	障害者等が行くことを事前に言っておくとスタッフが配慮してくれます
ホ テ ル	TOYA乃の風 リゾート	洞 爺	車いす対応のホテル。ゆったりすごすことができ、入浴もできます
	函館ロイヤル ホテル	大 森 町	身障用トイレもあり、事前に申し出ると配慮してくれました
公 共 施 設	函館市総合福祉 センター	若 松 町	身障者用駐車場が入口前に整備されており、介護者が一人でも乗り降りや入場が可能、1～4階の各階に身障者用トイレがある
	渡島総合振興局	美 原	身障者用駐車場が入口前に整備されており、介護者が一人でも乗り降りや入場が可能、1～4階の各階に身障者用トイレがある
	市民会館	湯川町	事前に連絡すると駐車場を空けてもらえるが、段差があり、車いすだと危ない場所あり。館内は車いす用に席を外してくれるなど対応してくださる
	函館市 中央図書館	五稜郭町	<ul style="list-style-type: none"> ・静かな雰囲気ですぐ利用できる ・広くて落ち着ける ・入り口近くに絵本コーナーが広くあり、見ても楽しい。五稜郭公園にも近い

3. 現地調査

地元の観光関連施設である史跡、公園、レストラン、ホテルなどの現地調査を行った。本報では五稜郭公園及び箱館奉行所、函館市中央図書館、レストラン ラ・ステラの実地調査結果を紹介する。なお、五稜郭公園は前述のアンケート調査において他の観光関連施設に比べて認知症の人の利用が想定されている場所であり、函館市中央図書館、レストラン ラ・ステラは「認知症の人が利用しやすい観光関連施設」として記載があった場所である。

調査時期は2013年夏、天候晴。車椅子利用の脳血管性認知症の73才男性（要介護4）及び介護家族（70歳女性・妻）、脳血管性認知症の78歳女性（要介護5）及び介護家族（70歳女性・妹）と同行した。

(1) 五稜郭公園

駐車場にスロープがあるが、公園内の駐車場につながる通路が未舗装で車いすを押すには重く、歩きづらい【写真3-1、3-2】。函館市電や周囲の美術館・図書館からは歩道が整備されておりほぼ平坦であるが【写真3-3】、観光客などで混み合う時



写真3-1 五稜郭公園駐車場から公園に入るスロープ



写真3-2 五稜郭公園駐車場スロープから公園までの未舗装道路



写真3-3 芸術ホールから五稜郭公園までの歩道

間帯であると、車いすを押したり、ゆっくり歩くことに気兼ねをする。車いす利用の認知症の人からは「自分だけ座ってて悪いと思う」などの意見が聞かれた。

公園内の道はほぼ平坦で、道幅も広くゆったりと移動することができる【写真3-4】。藤棚、堀など、地元の認知症の人にとっては思い出の場所も多い。堀で昔、フナを釣ったり、ボートに乗った話が出て、藤棚でも「ここに来たことがある」と笑顔が見られた【写真3-5、3-6】。



写真3-4 五稜郭公園内の道



写真3-5 五稜郭の堀の横



写真3-6 五稜郭の藤棚

(2) 箱館奉行所

復元した建物であるためバリアフリーにはなっていない。車いす利用者が入場するには、入り口に仮設スロープをもうけるために5分程度かかる【写真3-7】。事前に到着時間を言っておくとスムーズに入場できるようである。なお、仮設スロープは車いす利用者が入場した後に一度片付けられ、出場する際に再度つけられる。

車いす利用者は奉行所内の畳を傷つけないようにタイヤにカバーをかぶせ

た専用車いすに乗り換える【写真3-8】。専用車いすは2台であるが、これまでに足りなくなったことはない。杖利用者は杖にカバーをかぶせる。松葉杖には対応していない。

障害者手帳を見せると介護者も無料で入場することができる。ただし、障害者手帳を見せたり、車いすを乗り換えたり、歩行者の場合は靴を脱いで袋に入れて段を上がったり、入場時にかなりあわただしく、見慣れないスタッフに次々と話しかけられる状況になるため、認知症の人にはややハードルが高い印象である。

入場後は車いす専用の通路マップをわたされるが、順路がもうけられているだけで、ほぼすべての部屋を見ることができる。ゆっくりと自分たちのペースで移動ができ、認知症の人から建具について「一枚板だね」などの話がされた。

利用者の状況に応じて、スタッフのipadを用いた館内の説明を受けることができる【写真3-9】。こちらでも事前に予約をしておくスムーズに対応してもらえるようである。



写真3-7 箱館奉行所の仮設スロープ



写真3-8 箱館奉行所の車いす



写真3-9 箱館奉行所スタッフによる
ipadを用いた説明

(3) 函館市中央図書館

駐車場から入り口、建物内部はすべて平坦である【写真3-10、3-11】。図書館ゲート内も入り口付近は人の話す声が聞こえ、子どももおり、極端に静かではなく、ゆったりとすごすことができる。



写真3-10 函館市中央図書館入り口



写真3-11 函館市中央図書館の図書館ゲート

通路に面して、通路にも座席がある喫茶コーナーがあり、通路の座席に居れば周囲をあまり気にすることなく食事などができる【写真3-12、3-13】。食事は食べ残しを持ち帰ることはできないが、当初からテイクアウトで注文すれば一部をそこで食べて、残りを持ち帰ることができる。当日、一緒に行った認知症の人と介護家族は、これまでに実際にそうして食べられる分だけを食べて、残りを持ち帰ったことがあるそうである。



写真3-12 函館市中央図書館の喫茶コーナー(1)



写真3-13 函館市中央図書館の喫茶コーナー(2)

(4) レストラン ラ・ステラ

駐車場から入り口まではスロープが付けられている【写真3-14】。入り口や店内の通路も車いすが通ることができる。ただし、トイレへの通路は、手前にある女性用へはたどりつけるが、奥にある男性用が折れ曲がった先にあり、車いすのままではそこまで行けない。

事前に予約しなくても車いすへの対応が可能であるが、奥に個室があり、事前に予約しておけばそちらを利用してまわりを気にせず、ゆったりと過ごすことができる【写真3-15】。食事をしながら、認知症の人と介護家族の間で、今日見てきた歴史的建造物の話がされていた。

メニューは小さな文字が並び、写真もなくあまり親切ではないが、読み上げるとおおむね料理内容が推測できる内容である【写真3-16】。パスタやピザが多いイタリアンレストランである。

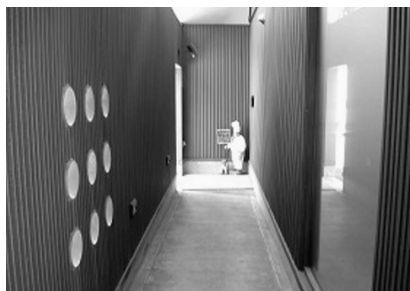


写真3-14 レストラン入り口のスロープ



写真3-15 レストランの個室



写真3-16 レストランのメニュー

4. まとめ

地元の観光関連施設の「認知症の人にとっての利用しやすさ」評価は総体的に低い。駐車場やバリアフリーについて多くの意見があるように、そもそものアクセスに問題があり、ゆったり落ち着いてすごせるか、スタッフの認知症に対する理解があるかなどを判断するところまで行き着いていない。歴史的観光地に多い坂道、石畳、段差は、これらの保全と合わせて、バリアフリーのアクセス経路を付属してもうけるなどの工夫が必要である。

認知症の人にとっては、観光地の人混み、有料施設入口のあわただしさなども観光を楽しめない理由となっている。事前に予約をしておけば休憩所を利用できたり、スタッフの手助けが得られるなどの配慮が必要である。歴史的建造物でスタッフの説明が受けられたり、テイクアウトで食事を注文しておけば、食べたい分だけをそこで食べて、食べ残しの持ち帰りができたり、レストランに個室があるなど、特に認知症に限ってもうけられているわけではないサービスが認知症の人に有効に活用されており、認知症の人に必要なサービスを伝えていくことで、ユニバーサルなサービスを備えた認知症の人でも利用できる観光関連施設が増えていくと考えられる。

認知症の人と介護家族の「他の人に遠慮がある」、「申し訳なく思う」気持ちは、「懐かしい場所を尋ねる」、「認知症の人との思い出づくり」などの多様な意味を持つ認知症の人と介護家族の旅行・観光を押しとどめることになる。社会全体での認知症の理解ももちろんのこと、認知症の人と介護家族が気兼ねなく旅行・観光を楽しめるよう観光関連施設側の努力が求められる。

文献

- 1) 大橋美幸：アクセシブルな観光－介護家族が認知症の人と共に旅行する意味、函館大学論究45(1)、pp.71-82、2012年
- 2) 大橋美幸：アクセシブルな観光－「介護家族が認知症の人と共に旅行をする」支援プログラム、函館大学論究45(2)、pp.105-123、2013年